

# 心理学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
担当教員	藤澤 美穂 講師		
対象学年	1	区分・時間数	講義 12 時間
期間	前期		

## ・学習方針（講義概要等）

心理学は、「こころ」を科学的にとらえる学問のひとつであり、人間を探究する学問である。心理学では人間のもつ「こころ」の動きを理解するため、知覚・行動・感情などを対象とした実験・調査等がおこなわれ、また観察等を通じた人間行動解明へのアプローチがなされる。テレビや雑誌等で日常的に目にする「心理テスト」は、心理学から得られた知見をわかりやすく抽出したものではあるが、学問としての心理学においては、概念の定義、論理の整合性、科学的方法論等が重視され、より学術的で厳密な態度が求められる。

本科目においては、心理学の歴史に沿って、心理学における基礎と応用の両視野を学ぶ。また学習心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、健康心理学、産業心理学、犯罪心理学および青年心理学の知見をもとに、「こころ」の働きと行動への影響を考える。

本科目の学修を通じ、独自性と多様性の尊重と、個人と社会の相互作用の理解を身に付けることを目指す。

## ・教育成果（アウトカム）

1. こころの科学である心理学の知識を幅広く学び、ものごとを心理学的視野により説明することができる。
2. こころと行動の理解を通して、個人・社会において生じる現象を相互作用的にとらえ、説明することができる。
3. 見えない“こころ”を理解するための多様な方法を学び、現象の背景を探究するための視点を獲得することができる。（ディプロマポリシー：1,2,3,4）

## ・到達目標（SBO）

1. 学習や記憶のプロセスを心理学的視野から理解し、説明できる。
2. こころのありようを考えることを通し、人間理解の多様な視点を身につけることができる。
3. 個人と他者、個人と集団の相互作用について理解し、説明できる。
4. 自分の「こころ」への興味関心を高く保つことができる。

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
5/1	金	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>心理学とその歴史【グループワーク】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学の誕生までの歴史を説明することができる。</li> <li>2.見えない“こころ”へのアプローチ法について、述べることができる。</li> </ol> <p>事前学習：教科書 1～12 ページを読んでおく。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。</p> <p>[B-3-2)-⑦]</p>
5/8	金	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>心理学でいう「学習」について【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学の「学習」の定義を述べるができる。</li> <li>2.古典的条件づけについて説明できる。</li> <li>3.オペラント条件づけについて説明できる。</li> <li>4.行動主義とそれまでの心理学との関係について、述べることができる。</li> </ol> <p>事前学習：前回講義で出された課題に取り組む。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。</p> <p>[B-3-2)-⑦]</p>
5/15	金	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>認知心理学-特に記憶について【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.認知理論が重視されるようになった経緯を説明できる。</li> <li>2.記憶のモデルについて説明できる。</li> <li>3.Miller の直接記憶範囲について説明できる。</li> <li>4.知覚的防衛について、説明できる。</li> </ol> <p>事前学習：前回講義で出された課題に取り組む。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。</p> <p>[B-3-2)-⑦]</p>

5/22	金	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>社会心理学の視点から「集団」を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.認知的一貫性理論について、身近な例を当てはめ説明することができる。</li> <li>2.同調行動について、説明できる。</li> <li>3.パーソナル・スペースについて、説明できる。</li> </ol> <p>事前学習：教科書 182～195 ページを読んでおく。</p> <p>事後学習：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [B-3-2)-⑦]</p>
5/29	金	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>臨床心理学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.臨床心理学の歴史を説明できる。</li> <li>2.臨床心理学の主要 4 領域を述べることができる。</li> <li>3.欲求と葛藤について、説明できる。</li> <li>4.愛着について、説明できる。</li> <li>5.多職種連携にかかわる心理職（公認心理師・臨床心理士等）の職能について理解し、説明できる。</li> </ol> <p>事前学習：教科書 116～124 ページを読んでおく。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 [A-5-1)-⑤、B-3-2)-⑦、E-5-3)-③]</p>
6/5	金	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>ストレスの心理学【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ストレスの定義を述べることができる。</li> <li>2.ストレスに関するところと身体的相关性を説明できる。</li> <li>3.心理的ストレスプロセスモデルについて説明できる。</li> </ol> <p>事前学習：現代人のストレスについて、インターネットで調べる。</p> <p>事後学習：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p> <p>[B-3-2] -⑦]</p>

6/19	金	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>働くことの心理学【グループワーク】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.職業性ストレスモデルについて説明できる。</li> <li>2.バーンアウトについて説明できる。</li> <li>3.ワーク・エンゲイジメントについて説明できる。</li> <li>4.ワークライフバランスについて、自身の意見を述べるができる。</li> </ol> <p>事前学習：仕事におけるストレスについてまとめておく。どういう職場環境で働きたいかまとめておく。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 [B-3-2)-⑦]</p>
6/26	金	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師	<p>思春期青年期の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.思春期と青年期の概念を理解し、述べるができる。</li> <li>2.犯罪（非行）場面誘引と場面形成について、説明できる。</li> <li>3.Hirshi の social bond 理論を説明できる。</li> <li>4.恋愛にかかわる感情の動きを理解し、相手を尊重した関係の重要性を述べるができる。</li> </ol> <p>事前学習：教科書 179 ページを読み、まとめておく。</p> <p>事後学習：講義資料を復習する。 [B-3-2)-⑦]</p>

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	図説心理学入門 第2版	齊藤勇（編）	誠信書房	2005
参	心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで	越智啓太（編）	創元社	2016

・成績評価方法

試験の成績を 50%、レポートの評価を 30%、授業中に実施するワークへの取り組みを 10%、確認テストの成績を 10%として評価する。ワークへの取り組みは、提出されたワークシートを対象とし、初回講義で示す「ワークシート評価基準」に従い、SABC の 4 段階で評価する。

・特記事項・その他

本科目は、一般的な講義に加えて、グループワークを適宜取り入れ、進行する。またコメントシート提出を求める回を設定する。  
グループワークの内容、コメントシートへ記載された内容、および提出物については、内容に応じて翌回の講義内でフィードバックをおこなう。  
WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。  
講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学習課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。講義中、事前学習内容をコメントシートに記載する時間を設ける。各回講義に対する事前学習の時間は最低 30 分以上を要する。事後学習については毎回配布される講義資料（レジュメ）等を用いておこなうこと。各回講義に対する事後学習の時間は最低 30 分以上を要する。  
【事前学習・事後学習のポイント】  
事前学習：次週の内容として示された箇所を、教科書を中心に予習をすること。  
事後学習；興味をもった箇所を図書館の文献などで調べること。  
授業で紹介する書籍や論文、DVD などは、心理学・行動科学分野研究室にもそろっていますので、積極的に研究室を訪問してください。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD (BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成